



東京工芸大学・風工学研究拠点・研究集会(2020年2月3日)

## 日本版竜巻スケールおよびその評価手法に関する研究

竜巻の強さの尺度として世界各地で用いられてきたフジタスケールは、被害程度の認識方法や風速の推定方法が明確でないなどの問題が指摘されており、米国では建築物等を対象として策定された改良フジタスケール(Enhanced Fujita Scale, EF スケール)が用いられています。本共同研究課題では、日本における竜巻の強度分類法として、国内の被害指標(Damage Indicator, DI)として適切なものを抽出し、それらの被害状況程度(Degree of Damage, DOD)の分類と対応する作用風速(または等価風速)の適切な評価方法の共同研究を進めてきました。その成果は、「竜巻等突風の強さの評定に関する検討会(会長:田村幸雄)」に提出され、2015年12月には、気象庁から「日本版改良藤田スケールに関するガイドライン」として公表されています。その後も継続して、DIとDODおよびその風速について、より安定的に評定できるよう、被害情報の収集、DIの洗い出し、DODの分析、時空間的に非定常な流れ場での構造物や樹木等の空気力の性質、構造物や樹木等の耐力、強度の評価方法など多岐にわたる研究を行っています。甚大な被害が生じた、千葉県市原市や宮崎県延岡市で発生した竜巻、平成30年台風21号、令和元年台風15号に伴う広域強風災害など、本年度の共同研究成果を公開研究集会として報告いたします。併せて情報交換を行い、今後の研究活動に活かしたく、奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げます次第です。

小林文明(防衛大学)

と き: 2020年2月3日 13:00~16:00

ところ: 気象庁本庁舎 2階 講堂 (東京都千代田区大手町1-3-4)

アクセス: <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/map.html>

参加費: 無料

参加申込: 当日受付可能ですが、受付にて氏名等の記入が必要になります。

(事前の参加申込みをお勧めします。申込は氏名・会社名・電話番号を下記までメールしてください。)

問合先: 東京工芸大学・風工学研究拠点 046-242-9658 拠点事務室 [jurc\\_office@arch.t-kougei.ac.jp](mailto:jurc_office@arch.t-kougei.ac.jp)

### プログラム

時間	タイトル 発表者(所属)
13:00-13:10	開会挨拶, 趣旨説明 小林文明(防衛大学)
13:10-13:35	2019年日本に暴風・突風をもたらした台風の特徴 益子渉(気象研究所)
13:35-14:00	2018年台風21号, 2019年台風15号における被害分布について 野田稔(高知大学)
14:00-14:25	台風被害に対する日本版改良藤田スケールの適用事例 松井正宏, 金容徹, 吉田昭仁(東京工芸大学)
14:25-14:40	休憩
14:40-15:05	2019年9月22日に発生した延岡竜巻の被害と風速 宮城弘守(宮崎大学)
15:05-15:30	2019年10月12日に市原市で発生した建築物等の竜巻被害 高館祐貴, 喜々津仁密, 中島昌一, 山崎義弘(建築研究所/国土技術政策総合研究所)
15:30-15:55	2019年の竜巻被害および評定結果について 松本聡(気象庁)
15:55-16:00	閉会挨拶 田村幸雄(重慶大学/東京工芸大学)